

工事現場に於ける地域住民との コミュニケーションについて

島根県土木施工管理技士会
河野建設株式会社
工務課課長
原田 晴美
Harumi Harada

1. はじめに

工事概要

- (1) 工事名：(一)一の瀬折居線滝見工区
県単道路（交通安全）工事
- (2) 発注者：島根県浜田県土整備事務所
- (3) 工事場所：島根県浜田市三隅町井野地内
- (4) 工期：平成22年9月1日～
平成23年3月25日

主たる工事内容

掘削工 310m³ 路体盛土工 860m³
路床盛土工 20m³ 残土処理工 730m³
軽量盛土工 841m² 補強土壁工 238m²
せん断ボルト工 244本 モルタル吹付工
935m² 用水構造物工 231m

当工事を受注し、現場踏査してみると既存の県道がかなり狭く、部分的に乗用車同士の離合もままならない箇所もあり（図-1）工事の主たる目的である拡幅工事を施工する時の、歩行者及び一般車両に対する安全対策、交通管理上の課題が浮き彫りとなりました。

更に調査を進めてみると、福祉バスはもちろん浜田市管轄の生活路線バス（ひゃこるバス）の運行も1日6便あり、また近隣には小規模校ではありますが、浜田市立井野小学校や社会福祉法人三

隅チャイルド井野保育所があり、児童や園児・保護者、地元民の方々に対する工事の周知方法及び現場に即した安全対策を、創意・工夫の基に問題点を探り出しその対策について、現場作業員一丸となって全力を注ぐこととしました。



図-1 着手前県道状況

2. 現場における問題点

現場踏査の結果、以下の3点が現場を工期内に無事故、無災害で遂行するために重要な問題、課題としてクローズアップされました。

1. 地域の皆様への工事内容の周知方法及び片側交互通行時のその範囲とその方法。

当現場条件下では、本来工事中における第三者災害が起きないようにするには、全面通行止による施工が最善ではあると思いますが、この県道一

の瀬折居線は三隅井野地区の主要生活道路であり、高齢者や地域住民の移動手段である生活路線バス（ひゃこるバス）の運行を停止することは出来ず、また迂回路となる市道も同時期、浜田市発注の全面通行止めの道路工事中であった為、全面通行止での施工を断念し、発注者と協議の結果、工事の特性上やむを得ず片側交互通行で実施することとしました。

2. 工事現場に近接する浜田市立井野小学校及び社会福祉法人三隅チャイルド井野保育所の児童、幼児に対する登下校時の配慮。

このことについては、工事現場に近接する浜田市立井野小学校や社会福祉法人三隅チャイルド井野保育所の児童や園児・保護者等の通学通園、下校下園時の交通事故予防対策や、一般通行車両への安全措置、工事関係車両の地元民の方々への防塵や安全対策が重要視されることが大きな問題点となりました。

3. 生活路線バス（ひゃこるバス）の運行に対する配慮。

1日6便と運行数は少ないけれど井野地区の住民、高齢者の移動手段には必要不可欠であり、その対策に苦慮しました。

3. 対応策と適用結果

1. の対応策として工事着手前にまず、近隣近接の住民の皆様にご紹介、そして工事趣旨の把握、理解をして頂くため、工事だよりを作成し地元自治会や各小组の会長へ配布し回覧して頂きました。（表-1）

また、近隣の方とのコミュニケーションを図る意味で、毎月末に同じく工事だよりを作成、片側交互通行時には前もって区間の範囲を図面に示し、その規制方法を添付し又、今現在の進捗状況の説明や状況写真を掲載し、建設業の仕事内容だけのことでなく、三隅町井野地区にお住いの方々みんなの道がどのように出来ていくのかを知って頂きたくて、出来るだけ建設専門用語は使わずに、一般の方が読まれても分かるように工夫して作成し、

工事が無事故で完工できるようにと、ご協力のお願いも併せて現場代理人が一軒一軒手渡しでお配りし、気持ちが伝わるように心掛けておりました。

また、着手時に現場の位置する殿河内地区の敬老会が催しされると会長さんより聞き、敬老会の式次第のひとつに組み入れてもらうように、工事説明をお願いしたところ心良く賛同され、その席にお邪魔させて頂き、工事概要の説明を分かり易くお話し、高齢者の皆様へ切にご協力を仰ぎました（図-2）。

そして、その席で僅かなアトラクションも披露して高齢者の皆様とのコミュニケーションも図りました。

表-1 工事だより

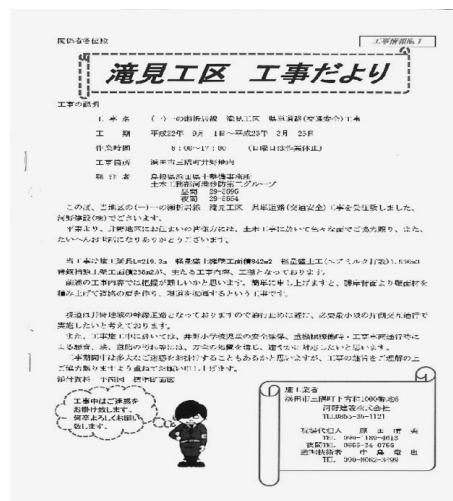


図-2 工事概要を説明する現場代理人

2. の対応策として地元の浜田市立井野小学校の児童のみなさんに監理技術者と私こと現場代理人の似顔絵を描いて頂き（図-3）、工事看板に掲



図-3 似顔絵の掲示

示させてもらって、工事に携わる人として親近感を少しでも持ってもらいたくて、登下校時に児童の姿を見かけた時には「おはよう。」「お帰り。」の声掛けを実施し、とかく言われがちな『大きな機械を使って工事をしているおじさん達は怖い』のイメージを払拭する意味でもコミュニケーションを積極的に取る事を心掛けました。

そうした所、児童達も朝、夕に元気に「おはようございます。」「帰りました。」と挨拶を返してくれるようになりました。

社会福祉法人三隅チャイルド井野保育所へは、ちょうどクリスマスシーズンも手伝って、園主催のクリスマス会があると聞き、サンタクロースのおじさんとして、現場代理人が参加させてもらいプレゼントを配ったり、アトラクションとして、得意のマジックを披露し、ほのぼののムードで喜んでもらいました。(図-4、図-5)

園児の皆さんも珍しいのか、私の一挙手一投足を見逃さないように食い入るように見つめて、時には歓声、また時には「見えた!」と大きな声ではしゃいでくれました。

また、片側通行規制時には起点、終点に黄色い手作り旗を作成、収納箱を設置し、児童・幼児の登下校・登下園時にはその旗を持っての登下校をお願いして、児童・幼児の安全確保に徹しました。

児童の皆さんも喜んでその旗を持って集団登下校をしてくれました(図-6)。



図-4 マジックを披露する現場代理人



図-5 サンタからのプレゼント



図-6 片側交互通行区間

黄色は、雨天時や夕暮れ時でもよく見えるので一般通行車輦や工事車両のドライバーへの視認性にも一役買っていたと思います。

ドライバーの皆さんも児童達を目視した時点で徐行運転されており、児童・幼児の安全確保にはかなり有効だったと思います。

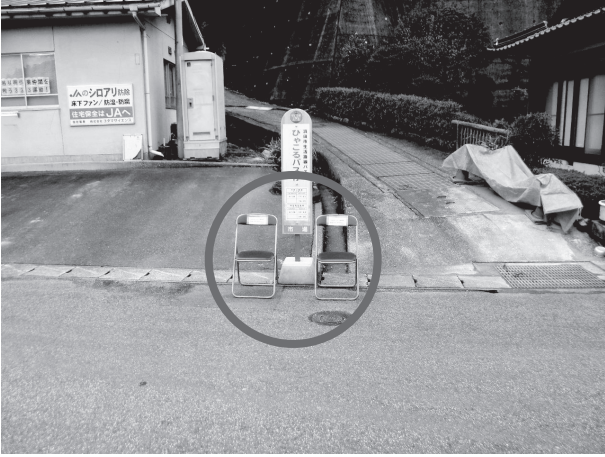


図-7 待合用パイプ椅子

後日談ですが、『クリスマス会すごく楽しかった』って子供が家に帰って喜んでいましたよ。と園児の数名の保護者の方から話を聞き、また、地域住民の皆様からも現場の皆さん全体に『気配り・心配り』があって、交通事故もなく、広くてきれいな道が完成して良かったと聞き、我々現場を預かり施工するものとして施工管理だけでなく、安全を重視した地域へ密着していく活動計画等、細々と大変だったけど、形や言葉に残っていくというのは大切なことだと思ってきました。

3. の対応策として生活路線バス（ひゃこるバス）の運行時に対する配慮ですが、運行時刻表を浜田市三隅支所市民福祉課より譲り受け、運行の時間帯には、綿密に道路上に材料のはみ出しはないか、風による資材の飛散・散乱の可能性はどうかなど、心配りをしました。

また、生活路線バス（ひゃこるバス）の待合所

がなく高齢者の人が立って待っておられたのを見て現場事務所のパイプ椅子を待合用に設置し、座って待ってもらえるように配置しました（図-7）。

4. おわりに

私達、土木施工業者は、工事現場を無事故、無災害で工期内に確実に完成させるためには、地元住民の方々の御協力・御理解なしでは遂行できないと思っております。

住宅密集地に近接する現場では何かしら苦情、クレームを受けることが数々あります。

例えば10あるクレームを0にすることは不可能かもしれませんが、出来るだけスムーズな工程管理の遂行を望み、迷惑の掛かっている側の立場になって相手の思いをくみ、その場凌ぎのじょうずな対応より、相手に納得してもらえようような誠意ある迅速な対応を心掛けております。

今後も努力を惜しまず、少しずつ地域住民の皆様とのコミュニケーションを図り、新しい絆をひとつひとつ作り上げて行くことを目標に日々努力しているところです。

『上手な対応より誠意ある対応』

まさしくこのことに尽きると思っています。

今世代、建設業全体がたいへん厳しい情勢ではありますが、大きく背のびせず、小さな事柄でも少しずつ拾い上げ、創意・工夫を考えそれぞれの現場に適応した安全対策・地域住民とのコミュニケーションを今後とも積み重ね、築き上げて土木工事に携わっていかれたらと思っております。